

博多湾の現状と課題

●博多湾の豊かな自然が人々に多くの恵みを与え、私たちの生活を支えている。
●博多湾環境保全計画(第二次)の評価では、当初の計画目標像を達成した場所(岩礁海域、港海域など)がある一方で、一部非達成の場所(干潟域、浅海域など)もある。
●博多湾の有する豊かな生態系サービス(海の恵み)を将来にわたって享受していくためには、ネイチャーポジティブ※の理念を意識し、市民・企業・行政など多様な主体が、博多湾への感謝の気持ちを持ち、自らが主体的に博多湾を守り育てる行動をとっていく必要がある。

※ネイチャーポジティブ：自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること

博多湾の新・将来像

“**生きものの育みと恵みを未来につなぐ豊かな博多湾**”
市民・企業・行政など多様な主体が博多湾の環境保全に向けた役割を理解し行動することで、生物多様性及び生物生産性が確保され、博多湾の有する「ささえる」「はぐくむ」「ふれあう」「つなぐ」の多面的機能が最大限に発揮された『豊かな海』になっています。

また、多くの市民が身近に自然を感じることができる空間として博多湾が利用されるなど、市民のウェルビーイング※に貢献しています。

さらに、多様な主体や世代がそれぞれの強みを活かしながら、豊かな博多湾を次の世代につなげていくための好循環が生まれています。

※ウェルビーイング：充実や幸福感に近い概念で、身体的、精神的、社会的に良い状態であること（第10次福岡市基本計画（原案修正案））

計画の視点

- 計画の視点は第二次計画から一部刷新し、5つの視点で計画を推進することによって、博多湾の有する豊かな生態系サービス(海の恵み)を将来にわたって享受するとともに、博多湾の多面的機能が最大限発揮されるよう努めます。
- 適正な水質保全**
生物多様性及び生物生産性確保のための望ましい栄養塩濃度や水質保全について考慮します。
 - 生物の生活史を通した環境保全**
博多湾を生息場とする多様な生物の生活史を通した生息環境の保全を重視します。
 - 企業など多様な主体との連携**
多様な主体や世代の連携により、豊かな博多湾を未来につなげる取組みを推進します。
 - 自然再興(NP)/脱炭素(CN)/循環経済(CE)の統合的推進**
生物多様性の損失や気候変動といった環境問題は個々に起こっているのではなく相互に影響しあっていることから、NP/CN/CEのつながりを意識しながら、博多湾の環境保全を推進します。
 - 市民のウェルビーイングの向上**
多くの市民が身近な博多湾とふれあうことで、心身ともに満たされた状態になり、ウェルビーイングが向上することを重視します。

